

2018年度 保育士交流会の記録

日時 2018年11月11日 10時から12時

場所 中央公民館 和室

参加者 保育士 9名、フォーラム役員 13名

司会・書記 当代島園

写真担当 入船園

松崎薫先生の挨拶で始まり、各園からの質問を保育士さんに回答していただきました。

※保育士さんのご意見はあくまで個人の見解です。

【保護者から保育士さんへの質問】

Q1 保育士さんの労働環境について。公立間で園を移動になった際、違いに戸惑うことや民間園にはない公立の良さ・魅力はあるか？

A 保育士が園を移動してもカリキュラムの元や体勢は変わらない。昔は園長になるのは役所の人だったりしたが今は長年勤め上げた保育士が園長になることが多い。そのため保育も現場によりそった見方ができるのだと思う。

また、公立は給料面でしっかり保障されている。NO 残業デーもあり民間よりは恵まれた仕事環境だと思う。浦安市の公立の保育士は全国的に平均年齢が低めだが、環境が整っているため長く仕事が続けられる。長年勤めているといろんな園をまわるので、以前勤めていた園の子どもたちが大きくなっていく姿が見られて楽しい。

A 民間はニュースでも取り上げられた世田谷区の保育施設のように、保育士が一斉に辞めるなど園長の経営方針ですべてが変わる。その点公立は保育の環境が一定しているので安心感がある。

Q2 女性が多い職場の保育園。保育士さん自身は産休育休を取りやすい労働環境なのか？

A 妊娠出産で辞めてしまう保育士はあまりいない。妊娠は自然なことなので、重なるときもあるが出産後また戻ってくることが多い。ただ当番が多いので民間の保育所に夜間など預けたり2世帯にしたり、まわりのサポートがないと続けるのが難しい。

みんな「お互い様、いずれ我が身」の気持ちで働いている。

Q3 子どもから質問され、答えに困ったときの対応は？

A 3才児の担任。「～やって！」と5人くらいいっぺんにくると対応に困ることがある。

その時は他の担任やサポーターさんを頼る。また、声をかけてきた子どもの顔を覚えておいて後でしっかり対応し、何を訴えたのかくみ取るようにしている。

A 「今は答えられないから待ってね」などの声かけをする。わからないことは先輩保育士の意見を参考にする。

A 男性保育士さんからのご意見。子どもが毛に興味を示すときがある。なんで男と女は違うのか、子どもに教えるいい機会だととらえている。

何よりも困るのがプライベートな質問。どこに住んでいるのか聞かれるので「シンデレラ城」と答えると王子様しか住めない！お姫様がいない！と突っ込まれる。子どもの質問をやんわりはぐらかしながら知恵比べを楽しんでいる。

Q4 横断歩道の赤信号では止まって待つように子どもに教えているが、渡ってしまう大人がいる。「なんであの人は渡っているの？」という子どもの疑問にどう答えれば良いのか？

A 社会的ルールはみんなが守るべきルール。交通事故のニュースなどを見たときに、ルールをまもらないところなるよ、事故にあってほしくないからルールはしっかり守ろうねと諭す。

保育園でのお散歩の時は歩道の歩き方や気をつけるべきことを教えている。また、物事がわかってくる4才児の遠足の時も公共のルールを教えている。誰々に怒られるからやっではいけない、ではなく何故やっではいけないのか理由付けをして伝えることが大事。

Q5 イヤイヤ期の子どもへの接し方は？また、家庭でこれだけは教えておいてほしいということはあるか？

A 1才児担任。トイレ・おむつ・ごはんなどの生活面で誰かがイヤがるとそれを真似してイヤがる子もいる。「イヤの気持ち」を受け入れることも大切。楽しい雰囲気を作り、「トイレまでハイハイで行こうか！」「ウサギの真似で行こうか！」などの声かけをする。次に待っている楽しいことを子どもに伝えることですすんでやってくれることもある。

A 2才児担任。知恵がついてきて要求が具体的になってきたためごまかせなくなってきた。電車が好きな子にはその話題で気分を変えてみるなど、それぞれの個性に合わせた対応をしている。

A フリー。先生の反応や困った顔を見てわざとイヤがる子どももいる。長年の保育士経験によりわざとかどうかを見極められるようになったので、余裕のあるときは一緒になって楽しんでいる。一対一で真面目にずっと付き合うのは大変なので受け流すことも必要。服を着るのをイヤがる子どもには、服を2つ用意し「どっちがいい？」と選ばせる。

お互い楽しみながら！

A 保育園の子どもはとてもお利口だが、家庭ではそうはいかない。イヤイヤ期は自分と人や環境の違いがわかってくるにつれて生まれるもので、自己主張をして人間になっていく過程として必要なもの。自分も通ってきた道！だと思えば我が子が愛おしくなってくる。

A 男児3人を育ててきたが子どものイヤイヤ期はあっという間、時期的なもの。時間の余裕がないときは、「この時間までにやってみようか」と声をかけ、イヤイヤが落ち着くまでいったん子どもから離れてみるのも手段。また、父親や兄弟にバトンタッチしてみる。子どもが大きくなってから振り返るとおもしろくて良い思い出になる。

A 家庭で教えておいてほしいことは、困ったことを素直に言えるようになること。子どもの話をよく聞いて、家庭でたくさん会話してほしい。どうしたの？と聞いても何も言ってくれない子どもがいる。「先生これできない」などと言ってもらえると保育士も援助しやすい。

Q6 4才児の親だが、保育参観での保育士さんの対応力にいつも感心している。保育参観で学んだことを家で実践するのは難しいのだが、保育士さん自身は自分の子どもに保育園と同じような対応ができるのか？

A 親として保育士としての立場は全然違う。「子ども」は好きだが自分の子の子育ては違う。母親は保育士とは違う愛情で育てている。他人と自分を比べず、自分なりの育児に自信を持つことが大事。できてもできなくてもウチはウチ！の気持ちで。

Q7 保育園での怪我などのトラブルについて。子ども同士のトラブルの予防法や、保育士が怪我させられた際の対応は？

A 1才児担任。友達がやっている遊びに興味があり、おもちゃを取ったりちょっかいを出したりすることがある。引っ掻いたり噛みついたりする前に、先に違う遊びに誘って気を逸らし遊んでいる子を守るようにしている。

A 1才児は友達と同じことをしたがる。おもちゃの取り合いなどにならないよう環境・空間を整えておく。年齢が大きくなるにつれトラブルも必要だと考えている。友達同士の関わりを通して成長していくものであり、それは人の気持ちを考えることにつながる。ただ大げまにならないよう見守りは必要。

A 保育士だって痛いときは痛い。「今痛かったよ」「嫌な気持ちだったよ」としっかり子どもに伝えることが大事。

Q8 子どもが他の子を怪我させてしまった時などの保護者間の対応はどうするべきか。親同士が顔見知りでない場合の謝罪の仕方について。

A 怪我させた側へは、出血がある・受診が必要・繰り返し怪我をさせるといった時には保護者に報告している。できるなら保護者間でのやりとりはあった方が円滑だが特に決められてはいないので任意でお願いしている。状況によっては保育士が間に入ってつないだりすることもある。

Q9 近年地震や水害などの災害が相次いでいるが、保育士としての災害時への対策・考えを教えてください。

A 毎月1回、避難訓練を行い職員全体が災害時への対応を把握している。津波対策の避難訓練も導入し、園周辺の環境に合わせて避難計画が立てられている。

A 3.11の時、入船園勤務中。ちょうどおやつの時間、年長さんクラスを受け持っている時に地震が発生。まずはすぐに園の子どもたちの安全を考えた。園児が全員帰宅したのは翌日の昼過ぎ。乳幼児がいる職員は優先して帰宅させたが子どもたちの安全を守る最低限の人数の職員は残っていた。最後の一人がお迎えに来るまでしっかり保育士がみているので安心してほしい。

また、液状化を経験して避難方法をワゴンからおんぶひもへ変更。より安全な対策を講じている。震災経験者の保育士が、未経験の保育士へ体験したことを伝えていく必要がある。

A 災害時に大変なのは子どものお迎え。不審者対策として両親以外だと確認がとれるまで引き渡すことができない。そのため緊急連絡先で家族以外の名前を書くように対策した。近所の人やお友達、親戚でもいいので両親以外の名前を書いておいてほしい。

【保育士さんより】

① 今後困ってくる可能性のある、保育園の給食室問題について。

浦安市が保育園の給食員の採用を行っていないため、現給食員の高齢化により調理員がいなくなってしまう可能性がある。給食も含めて「保育」だと考えている。調理員さんが目の前でおにぎりを握ってくれたり旬の食材を提供してくれたりするのは子どもにとって大事な食育。浦安市の給食は素晴らしいので、市へ要望を出し今後も委託ではなく直営でやっていきたい。

② 保育評議会より

2018年12月2日(日) WAVE101 大ホールで【親子フェスタ】が開催されます。

楽しい遊びの提供や、ワークショップではおもちゃを手作りできます。
みなさん是非参加して下さい！
※無料です。